

【論文】

アダム・ファーガソンの商業的アート概念：The Making of the Modern World を用いて

福田名津子（一橋大学附属図書館研究開発室）

1. 序論

アダム・ファーガスン（1723-1816）はデイヴィッド・ヒュームやアダム・スミスとともにスコットランド啓蒙を担った主要な知識人のひとりで、エディンバラ大学の自然哲学教授および道徳哲学教授を務めた。彼は、著作家として最初に名声を得た『市民社会史論』¹（1767）で、未開から文明に移行する人間の歴史のなかに多様なアートの発展を見た。そのうち本論文では「商業的アート」に着目し、フルテキスト・データベースによってファーガスン以外の用法と比較した結果、商業的アートを「生活に要するモノの獲得」と捉える彼の独自性が確認された。最後に、代替手段の僅少さというフルテキスト・データベースの性質に由来する学術情報基盤の格差に触れる。

ファーガスンのアート概念への着目は『市民社会史論』（1767）に限らず、『自然哲学について』²（c. 1760）、『ニューマティクスおよび道徳哲学の分析』³（1766）、『道徳哲学綱要』⁴（1769）、『道徳・政治科学原理』⁵（1792）といった一連の哲学的作品に共通するのだが、この概念に焦点を当てた研究は新しく数も少ない。本論文で扱う「商業的アート」を経済論の領域と捉えるならば、マルクス主義的アプローチ⁶、商業社会観からのアプローチ⁷はあるが用語自体への注目は見られない。ファーガスンに関する日本初のモノグラフである天羽康夫『ファーガスンとスコットランド啓蒙』⁸（1992）はファーガスンの文明社会観を扱い、とりわけ富と徳の緊張関係を意識しているが、『史論』に関する記述で、未開状態に対し文明状態を特徴づけるのは「政治と経済の発達」であるとしている。その根拠を『史論』第3および第4部のタイトルに求め、「政治と技術の歴史について」「政治的商業的技術の進歩から生じる諸結果について」とそれぞれ翻訳している⁹。政治的アートを政治、商業的アートを経済と読み替えることでファーガスンの定義を理解しているのだが、その分かりやすさと引き換えにアートという語自体に十分な配慮がなされていない。『史論』には他にも、機械的アート、文学的アート、リベラル・アートなど様々なアートが登場するのだが、それらとの関連性が断ち切られている。

近年ではベリーがファーガスンのアート概念に着目し、商業的アート・政治的アート・

芸術的アートの同時性を指摘している。これらのアートは文明社会に特有のものでないという重要な見解を示すとともに¹⁰、商業的アートは生活に要するモノの獲得に関わるという点も明らかにされている¹¹。ただし議論の根拠に用いているファーガソンの著作が『史論』『綱要』『原理』に限られ網羅的でないために、多様なアートの核にある「アート概念一般」に対する分析が必ずしも十分でなく、結果としてアート概念の構造を捉えきれていない。ベリーの結論で、アートは進歩の原理を体現したものとされた¹²。

2. アート概念一般

ファーガスンによると、アートは知識の適用を指し、人間に本来的である。知識には直観的なものから高度なものまであるが、これに基づいて外的事物に働きかける限りはすべてアートと呼ばれる。一連の哲学的著作においてこのアートの基本的語義に変化はないが、知識とアートのあいだに同時性を認める場合と、前後関係を認める場合がある。

彼は1759年にエディンバラ大学自然哲学教授に就任したのだが、その期間に執筆された『自然哲学』(c. 1760)に次のような文章がある。

人間は存在の始まりと同時に、自然に関する知識を獲得し始める。1. 彼がその一員となる世界には本能的アート *instinctive arts* が存在し、知覚 *perception*・推論 *reasoning*・直観的知識 *intuitive knowledge* を用いることができる。2. 必要に促されて彼は知識を増大させ、能力を拡大する。3. 偶然的な動機に促され、彼は知識と能力の点で向上する。これがアートと科学である。¹³

自然哲学の扱う範囲は、1. 自然法則を解明すること、2. 自然現象を説明すること、3. 生活の便宜のため、これらの知識をアートの改善と発明に適用すること、そしてその他諸科学の発展に直接適用することにある。¹⁴

知識とアートの関係性について、先の引用では同時性を認め、後では論理的前後関係ないし目的・手段関係を認めている。しかしこれはすぐさま矛盾とはいえない。前者引用の知識には「直観的」、アートには「本能的」という限定がなされているためである。存在の始まりとともに人間は直観的知識と本能的アートを持っており、両者の発展していく過程で、知識はアートに適用される。

1764年にファーガスンはエディンバラ大学道德哲学教授に就任したのだが、その教科書として用意された『分析』(1766)と『綱要』(1769)では知識とアートに派生関係を見ており、知識はヒストリー・サイエンス・アートの順に様相を変えるという思考が定着している。『分析』では、ヒストリーは個別的知識、サイエンスは一般的知識、アートは「知識や慣習に基づく力」と順に定義され、「人間はこれ〔アート〕によって精神の機能を働かせたり外部の対象に働きかける」とされた¹⁵。『綱要』では、ヒストリーは事実の集合、サイエンスは一般法則とその適用と定義されている¹⁶。そして事実に関する知識は、アートを実践する第1条件であると述べられた¹⁷。同第3版(1785)では、ヒストリーは個別的知識、サイエンスは一般法則とその適用、アートは知識の実践への適用とされた¹⁸。

ファーガスンのアート概念には「知識」との対比のほか、「自然」との対比もある。

私たちは自然とアートを区別して語るが、人間にとってアートそれ自体が自然 *natural* なのである。人間はいわば自身の骨組みと運命を形作る技術家 *the artificer* で、生を受けたそのときから発明したり工夫するよう定められている。¹⁹

『綱要』の2年前に出版された『史論』からの引用であるが、アートは自然であると形容詞で説明されているのであり、アートと自然が同一視されているのではない²⁰。ここでは『自然哲学』と同じくアートの本来性がいわれているのであり、「人間は生まれながら *by nature* にして、発明の才・判断力と意志を備えたアーティストである²¹」という『原理』(1792)の記述と変わらない。自然とアートのあいだにある対立と補完について、ファーガスンは理解している。アートが自然への働きかけを指すとき両者は相いれず対峙する関係だが、アートの先天性を考慮するとアートは自然の一部ということもできる。

3. アートの発展と多様化

『史論』「アートの記述について」²²では、人間はその存在の瞬間から絶えず発明し努力するよう運命づけられており、この才能を様々な目的に向けているあいだ²³、アートは人間のあらゆる活動領域で発揮されるとしている²⁴。アートの発揮されている事例に挙げられたのは建築家、武器製作者、船大工、歴史家、詩人と多岐に渡っていた²⁵。完成を最終目的に据えたアートが未熟な段階から発展・多様化・成熟する過程は、社会が未開状態から文明状態へと移行する過程と重なり、ここでアートの発展と社会の発展は同調する。未

開国民よりも商業的国民のほうが多くのアートを実践し²⁶、未開国民は文明国民の持つ優れたアートと規律に屈したこと²⁷、未開状態からの進歩は人間がより強靱になり安全を確保するための闘争とアートに満ちていること²⁸が書かれている。

道徳哲学に関する著作にも、アートの発展と多様化に関する記述がある。『分析』「人類の記述」²⁹では、商業的アート・学問的アート・政治的アートの多寡によって、歴史は野生・未開・文明の3つに分けることができると書かれている。

同じ民族であっても時代によって、商業的・学問的・政治的アート commercial, literary, and political arts の多寡に従い、野生・野蛮・文明 savage, barbarous, or polished に区別される。野生期では財産も統治もなく人々は平等に暮らす。野蛮期では人々は生まれや財産の不平等によって区別され、部族を形成しそのリーダーに従う。文明期では教育・職業・生活様式が多様化し、新しい優劣を生む。法と政府の指揮するなか、人々は執政官・世襲・選択によって支配される³⁰。

『分析』のなかで次にアートが登場するのは、「パブリック・エコノミーについて」³¹である。ここでは国民の富と収入が扱われ、アートの分割によって国民は熟練していくこと、アートの分割には商業が必要であることが述べられている³²。この記述は、後の『綱要』「アートと商業」に記される内容である。

『綱要』でアートの語が用いられるのは、アート一般を指す場合を除き、商業的アートに集中している。「パブリック・エコノミーについて」³³では国家の資源として国民・富・収入が主題とされ、商業に関する記述もある。しかしここでの議論はおもに商品の価値と価格をめぐるもので、商業的アートに関する議論は「アートと商業」に集中している。

ファーガスンはその後、『綱要』第2版(1773)、第3版(1785)、新版(1800)を出版している。初版を合わせ4つの版に登場するアートを比較すると、第3版の序論で、学習の目的として「ヒストリー・サイエンス・アート」が列挙され³⁴『分析』に見た知の3形態が明示的に現れ、これは新版にも引き継がれている。「アートと商業」の内容に関しては、4つの版で大きな差異はない。

詳論されなかったとはいえ『分析』では商業的・学問的・政治的アートの3種が登場したが、続く『綱要』には商業的アートしか引き継がれなかった。『綱要』の後半にある「政治学」は、あるいは政治的アートの語を使って同じ内容を論じることもできたかもしれな

いが、ファーガスンは道徳哲学のなかで多様なアート論を展開しない。ほぼ同時期の『史論』でのアート論と比較すると筆を抑えた慎重な印象を受ける理由には、『史論』がエッセイであるのに対し『綱要』は教科書であるという、性質の違いが考えられる。

4. 文明社会とアート

ファーガスンによると文明社会はアートの高度に発達した社会、とりわけ商業的アートと政治的アートの発達が顕著な社会であった。『史論』で文明国民の記述にあてられた第4部のタイトルがそれを示しており、天羽康夫は「^{シヴィル}政治的商業的技術の進歩から生じる諸結果について」と訳している。大意として問題はないが、ここでファーガスンの意図に踏みこむことも可能である。『史論』において市民的アート *civil arts* と政治的アート *political arts* という語句の使い分けに厳密さはないが、いずれの場合でも政治と軍事が同時に意識されている。

アートや職業を分割することは、ある場合にはそれらの実践を改善し、目的の達成を促進する傾向がある。被服工となめし工のアートを分けることで、以前より多くの靴と衣服が供給される。しかし市民と政治家を構成しているアート、すなわち政策と戦争のアートを分離することは、人間の性格を分裂させることに等しく、私たちが改善しようとしているアートそのものを破壊する試みである。このような分割によって事実上私たちは、自由な国民の手から人々の安全に必要なものを取り上げてしまう。³⁵

[傍点は引用者による]

社会的分業で最大の問題となるのは、政治と軍事のアートを分けて別の人間に預けることである。ファーガスンは古代ローマ人を思い起こし、彼らは戦争のアートを職業化し市民と兵士を分けることで、政治的権利を事実上放棄したことに気づかなかったのだという³⁶。彼にとって政治と軍事は不可分で、政治的アートはこのふたつに関するアートを指す。そして文明社会では、政治的アートとともに商業的アートが際立っている。

少数の特殊事例を除き、商業的アートと政治的アートは同時に発展してきた。近代ヨーロッパにおいてこれらのアートは非常に結びつきが強いので、どちらが先に生まれたか、両者が作用し合う相互影響関係においてどちらがより発展したか、決めること

ができない。³⁷

商業的アートの定義は、道徳哲学に関する著作に詳しい。『綱要』「アートと商業」³⁸という節は、「外的事物の獲得は最終的に、安全・〔生存³⁹〕・便宜・装飾の手段を獲得することである」という文章で始まる⁴⁰。晩年の『原理』では、商業的アートは物質的不足と必要から生まれ、最終的には富・便益品・装飾品の獲得に行き着くと定義されていることから⁴¹、「アートと商業」は商業的アートについて書かれた節であると理解することができる。ここで、商業的アートは商業社会に特有ではなく⁴²、商業と同義でない点に注意が必要である。外的事物の獲得には4種あり、(1) 安全の確保に必要な武器と防壁、(2) 生存の確保に必要な漁労・狩猟・放牧・農業、(3) 便宜に必要な衣服・住居・家具・各種道具類、(4) 装飾に必要な貴金属・宝石の獲得を指す。「商業的アート」とは、これら安全・生存・便宜・装飾の手段を獲得するためのアートすべてをいい、採取・生産・交換の概念とも含まれている。

対する「商業」とは商品の交換を指す語で⁴³、商業的アートの発展に伴ってその必要性が増す⁴⁴。商業的アートは分割されて各人に委ねられることで発展するのだが⁴⁵、交換によって他人のアートの成果物が獲得できる確証がなければ分割は成立しないためである⁴⁶。したがって商業的アートの発展は、商業の成功に負うところが大きい。ファーガスンにとって商業と商業的アートは区別される概念で、前者は後者に包摂されている。

5. 商業的アートの用法（1751～1800年）

ファーガスンにとって文明社会を特徴づけるものは、政治的アートと商業的アートの発達であった。前者は政治と軍事に関わり、後者は生活に要するモノの獲得に関わる。『原理』では「商業的アートが人間の動物的性向の必要性から生まれるように、政治的アートは原始社会における不足と欠陥から生まれる」と定義されている⁴⁷。政治的アートに政治と軍事を含めるのはシヴィック的伝統や民兵論争を想起すれば理解可能であるが、商業的アートの定義、それと商業との区別は必ずしも一般的でない印象を受ける⁴⁸。そこで当時の「商業的アート」の用法を網羅的に調査し、ファーガスンによる定義の独自性の有無を判断することにした。調査には、当時の出版物をフルテキストで収録し全文検索可能なデータベースを使用することにした。

18世紀の人文・社会科学に関してよく知られたフルテキスト・データベースに、The

Eighteenth Century Collections Online (ECCO) と The Making of the Modern World: Part I: The Goldsmiths'-Kress Collection, 1450-1850 (MoMW I) のふたつがある〔表1参照〕。ECCOは The English Short Title Catalogue (ESTC) に基づき 1701～1800年にブリテンおよび北米の出版物をフルテキストで収録したデータベースで、収録数は約 180,000 タイトル、32,000,000 頁にわたる。主題領域は、①歴史・地理、②美術、③社会科学、④文学・言語、⑤宗教・哲学、⑥法、⑦総記、⑧医学・科学・技術の8つに分かれており、各主題を自由に組み合わせ検索することが可能である。MoMW I はおもにロンドン大学ゴールドスミス文庫とハーバード大学経営大学院クレス文庫に基づき 1450～1850年の出版物をフルテキストで収録したデータベースで、経済・政治思想史に関してはヨーロッパ言語で書かれた重要な著作のほとんどが含まれているという。収録数は約 60,000 タイトル、12,000,000 ページにわたる。主題領域は広義の経済学で、政治科学・歴史・哲学・社会学を含むが、検索条件に主題領域は含まれていない。2013年12月現在一橋大学附属図書館はECCOを購入していなかったが、今回は「商業的アート」の用法を調査するものなので、主題領域を「広義の経済学」とした MoMW I のみでも差し支えないと判断した。ただしその後2014年1月から附属図書館でECCOのフリー・トライアルが実施されたので、MoMW と ECCO を用い「アート」と「商業的アート」の使用頻度を調べるという後述の付帯調査が可能であった⁴⁹。

ファーガスンが商業的アート概念に言及した著作は『分析』『史論』『綱要』『原理』で出版時期が18世紀後半に集中しているため、調査対象時期は1751～1800年の50年間に設定した。ファーガスンの作品で商業的アートという語句はすべて複数形であるが、今回は用法の調査であるから単数形・複数形の両方で全文検索をかけることにした。理論的には“commercial art*”という検索語で調べることになるのだが、データベースのシステム上ダブル・クォーテーションとワイルド・カードの併用は不可のため、“commercial art” “commercial arts” で別に検索をかけた〔画像1参照〕。合計すると44点の資料が検索結果に現れたが、検索ミスを調整した結果⁵⁰、最終的に42点となった〔画像2参照〕。データベースを用いて数えられるのは検索語が含まれる資料の点数までで、検索語の使用回数はヒットした1資料ごとに直接数えるしかない〔画像3参照〕。この作業を通じ、1751～1800年までに「商業的アート」という語句は MoMW I のなかで249回使われていることが分かった〔表2参照〕。そのなかでファーガスンが166回と圧倒的に多いのは『史論』での使用回数の多さに加え、1751～1800年でこの作品が第6版まで出版されていることに関連している。ファ

一ガスン以外の著者では1冊につき10回以下の使用であるのに対し、『史論』では20回以上用いられている。

当該期間中でファーガスン以外の著者が用いた「商業的アート」は83回あった。文脈から判断したところいずれも「貿易」「商業」「取引」「交換」という意味で用いられており、「生活に要するモノの獲得」というファーガスンの用法を見つけることはできなかった。たとえば Malachy Postlethway, *Britain's Commercial Interest Explained and Improved*. (1757) には「貿易促進を目的とし、その他の国家において実践している商業的アート」とあり⁵¹、Thomas Mortimer, *The Elements of Commerce, Politics and Finances*. (1772) には「近代人によって保持・適用され、国内の交易と広範囲にわたる外国貿易の基盤となっている商業的アートの原則」とあるのだが⁵²、これらの用法の中心にあるのは交換概念である。用法を判断する手がかりに「商業的アート」という語句の近くに現れる言葉を調査したが、貿易・商業・商人といったものが多かった〔表2参照〕。以上より、生活に要するモノの獲得に関するアートを「商業的アート」とするファーガスンの用法は当時異例であったと結論づけた。

6. MoMW と ECCO を用いた付帯調査

今回「商業的アート」の用法調査にフルテキスト・データベースを用い、ファーガスンの独自性を確認した。こうしたデータベースがなければ筆者の読書経験と記憶に頼るほかになく、249もの用例を見つけることはおよそ不可能であった。OCRの不備によってか検索結果に現れない資料を偶然1点見つけたが⁵³、許容範囲のエラーであろう。こうしたフルテキスト・データベースの可能性をさらに利用するため、MoMW I とその後続版 MoMW II⁵⁴〔表1参照〕および ECCO を用いた付帯調査を行うことにした。

第1に MoMW を用いた付帯調査として、「アート」と「商業的アート」の使用頻度を17～19世紀の300年間にわたり全文検索で調べた〔表3参照〕。この方法では、検索語が文中に1回でもあれば⁵⁵その資料が検索結果に現れる。MoMW で「アート」の語を含む資料点数を調べると⁵⁶、17世紀前半で924点・17世紀後半で2,551点・18世紀前半で5,831点・18世紀後半で17,733点・19世紀前半で29,858点・19世紀後半で6,093点となり、最も多いのは19世紀前半であった。出版物の数は時間に比例して増加するという前提を当てはめると19世紀後半に最大値が訪れるはずだが、実際のピークは19世紀前半にある。あるいは50年ごとの差分では、17世紀後半は2.8倍の点数・18世紀前半は2.3倍・18世紀後半

は3.0倍・19世紀前半は1.7倍・19世紀後半は0.2倍となり、18世紀後半にピークを認めることもまた妥当であろう。同じ調査を「商業的アート」で行うと⁵⁷、17世紀は0点・18世紀前半で1点・18世紀後半で46点・19世紀前半で11点・19世紀後半で1点となり、最も多くなるのは18世紀後半であった。また50年ごとの差分でも同時期がピークとなった。ここからいえるのは、ファーガスンが商業的アート概念について執筆した18世紀後半という時期は「アート」という語自体が増加傾向にあり、「商業的アート」も傾向を同じくしていたということである。

第2に ECCO を用いた付帯調査として、「アート」と「商業的アート」の使用頻度を同じく全文検索で調べた〔表3参照〕。このデータベースでも、検索語が文中に1回でもあればその資料が検索結果に現れる。MoMW と ECCO で収録時期が重なるのは18世紀の100年間である。この期間において「アート」の全文検索にヒットする資料は、MoMW I で約23,500点、ECCO で約225,500点であった。「商業的アート」では、MoMW I で47点、ECCO で149点ヒットした。「アート」はMoMW I の主題領域である「広義の経済学」からあふれる概念であるため、ECCO とのヒット件数の差は説明が可能である。ECCO の主題領域別検索を利用すると、検索結果の最大値は文学・言語（71,000件）で、続いて宗教・哲学（56,000件）、社会科学（36,000件）となった〔表4参照〕。

「商業的アート」のヒット件数の差には、別の説明が必要となる。ECCO の主題領域別検索を利用すると、検索結果の最大値は「歴史・地理」（68件）で、次に「社会科学」（47件）となり、「文学・言語」、「宗教・哲学」、「医学・科学・技術」といった主題領域にもわずかだがヒットがある〔表4参照〕。商業的アートという語句はMoMW I の主題領域である「広義の経済学」に包摂されうる性質だが、実際の用例はこの領域に限らない。文学・言語では Cornelius Arnold, *Commerce. A poem* (1751)、宗教・哲学では Newcome Cappe, *A Sermon Preached on Friday the Fourth of February, MDCCLXXX* (1780)、医学・科学・技術では David Stephenson, *Medicine Made to Agree with the Institutions of Nature* (1744) などの資料がヒットしているが、これらはMoMW I に収録がない。

商業を連想させる語句が文学書に含まれている可能性は現在でも多分にあり、その種のもものがMoMW I から漏れているというのがひとつの説明である。あるいは、一般に科学が専門分化するのは19世紀以降といわれており⁵⁸、それ以前の自然科学・社会科学・人文学はある強度の結びつきを保って発展してきたため、「広義の経済学」という主題領域でも扱えない経済学的議論もまた存在するという可能性がある。ファーガスンの『分析』『綱

要』とも経済学的議論が含まれた著作であるが、『分析』は ECCO で「医学・科学・技術」に、『綱要』は「宗教・哲学」に分類されており、そのせいかいずれも MoMW I に収録されていない。

7. 結論

ファーガスンは『史論』で文明社会の特徴を、商業的アートと政治的アートの発展に見た。前者について MoMW I を用い 1751～1800 年の用法を調査したところ、生活に要するモノの獲得に関わるとした彼の定義に独自性が認められた。MoMW および ECCO を用いた同時期の付帯調査では、当時商業的アートという語は増加傾向にあったこと、主題領域別に見ると「歴史・地理」、「社会科学」、「文学・言語」の順に資料の多いことが分かった。

今回の調査ではおもに MoMW I を用いたのだが、理由は筆者の所属機関が購入していたこと、調査内容とデータベースの主題領域が合致していたことにあった。フリー・トライアルで後に使用可能になった ECCO を用いると、MoMW I より約 100 件多い検索結果が得られたのだが、これは筆者にとって本来知りえない情報であった。

人文・社会科学系の研究では、所属機関の図書館資料が研究者に主たる研究基盤を与えていることが多い。仮に必要な資料を所蔵していない場合は、他機関への訪問・現物貸借依頼・複写依頼といった方法で解決することができる。しかしその資料がデータベースであった場合、研究者個人で解決することはおよそ不可能である。フルテキスト・データベースに関していえば、ブラウズと検索の機能のうちでとくに後者は代替がきかない。ブラウズ機能の代替としては、資料を所蔵する機関に出向いて調査をすることが可能である。費用や時間の負担はあるが不可能とまではいえず、データベースの存在しない時代の研究者はこの行動をとっていた。しかし検索となると、所属機関でデータベースを購入していない限りは実行が不可能である。フルテキスト・データベースは検索機能を生かした悉皆調査という新しい可能性を持っていると同時に、代替手段の僅少さから研究基盤の格差を誘発している事実も否定できない。

大学図書館等もこの事態を認識しており⁵⁹、国立情報学研究所（NII）・国立大学図書館協会（JANUL）コンソーシアム・公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）の3者で人文・社会科学分野の電子コレクションの整備を検討し、2008年に House of Commons Parliamentary Papers Online、2010年に MoMW I の共同購入契約が成立した。これはナショナル・サイトライセンスによる購入でなく、データベースの利用にあたりコンソーシアム

加盟機関は別途出版社との契約が必要となっているものの、購入価格は通常よりきわめて低く抑えられている。3 組織の結びつきを引き継いだ大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)⁶⁰の業務内容にも「E リソース・ナショナルコレクション」という項目があり、その下位には「EJ [電子ジャーナル] バックファイル」⁶¹とともに「人文社会科学系電子コレクション」の文字がある⁶²。JUSTICE 設立以降では、2011年に 18th Century House of Commons Parliamentary Papers、2012年に MoMW II、2013年に ECCO の共同購入契約が成立している。

「人文社会科学系電子コレクション」として5つフルテキスト・データベースが導入されたのは非常に意味のある第1歩だが、他国と比較した場合にはさらなる発展が望まれる。というのも「人文社会科学系電子コレクション」にあるフルテキスト・データベースは非常に安価になったとはいえ、これを必要とする研究者にアクセス権が付与されるかどうかは依然として所属機関の個別的事情に左右されるためである。たとえばドイツでは、ドイツ学術振興会 (Deutsche Forschungsgemeinschaft) によって書誌データベース8点、辞書類8点、電子ジャーナル67点、フルテキスト・データベース81点の計164点がナショナル・サイトライセンスで導入されており、大学など国内の高等研究機関から自由にアクセスすることができる⁶³。すぐさま同じ状況に追いつくことは困難であるが、日本でも引き続き電子リソースの共同購入契約を成立させることが望まれ、ナショナル・サイトライセンスの実現も視野に入れる必要があるのではないかと思われる。

表1. 18～19世紀フルテキスト・データベース(人文・社会科学)の簡易比較

名称	タイトル数	頁数	範囲	主題領域	原資料・情報源
MoMW I	62,400	12	1450-1850	広義の経済学 (政治科学・歴史・哲学・社会学を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ロンドン大学ゴールドスミス文庫 ▶ ハーバード大学経営大学院クレス文庫 ▶ コロンビア大学セリグマン文庫 ▶ スターリング記念図書館所蔵資料
MoMW II	5,000	1.2	1851-1914	社会史・経済史・経営史に加え、 政治科学・技術・工業化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コロンビア大学セリグマン文庫 ▶ 広島経済大学セリグマン文庫 ▶ カンザス大学図書館所蔵資料 ▶ ロンドン大学ゴールドスミス文庫
ECCO	182,898	32	1701-1800	①歴史・地理 ⑤宗教・哲学 ②美術 ⑥法 ③社会科学 ⑦総記 ④文学・言語 ⑧医学・科学・技術	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ESTC

(単位:百万)

表2. MoMW に含まれる「商業的アート」(1751~1800年、単数形・複数形の別なし)

出版年	回数	著者	タイトル	近くにある語句
1751	1	Postlethwayt, Malachy	The merchant's public counting-house . . .	wealth, glory, trade
1751 [-1755]	2	Savary des Brûlons, Jacques	The universal dictionary of trade and commerce . . .	BARBARY, trading nations, merchants, glory
1756	1	Bell, William	A dissertation on the following subject . . .	industry, employment
1757	5	Postlethwayt, Malachy	Britain's commercial interest explained and improved . . .	Royal Society of London, sciences, improvement, trade, manufactures, advancement, commerce, navigation
1757	2	Postlethwayt, Malachy	Britain's commercial interest explained and improved . . .	commerce, parent of treasure, encouragement
1757	3	Postlethwayt, Malachy	Great-Britain's true system . . .	wealth, glory, trade, manufactures, advancement, labor, improvement
1757	2	Savary des Brûlons, Jacques	The universal dictionary of trade and commerce . . .	重複テキストのため省略
1758	1	Temple, William, of Trowbridge	A vindication of commerce and the arts . . .	industry, flourish
1759	5	Postlethwayt, Malachy	Great-Britain's commercial interest explained and improved . . .	重複テキストのため省略
1759	2	Postlethwayt, Malachy	Great-Britain's commercial interest explained and improved . . .	重複テキストのため省略
1761	1	-	London and its environs described . . .	Mercury, commerce
1764	1	Harte, Walter	Essays on husbandry . . .	trade, husbandry, encouraged
1767	26	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society.	-
1767	5	Postlethwayt, Malachy	Britain's commercial interest explained and improved . . .	重複テキストのため省略
1767	2	Postlethwayt, Malachy	Britain's commercial interest explained and improved . . .	重複テキストのため省略
1768	1	Dossie, Robert	Memoirs of agriculture, and other oeconomical arts.	agriculture
1768	27	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society. 2 ed.	-
1768	25	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society. 3 ed.	-
1770	1	Harte, Walter	Essays on husbandry . . .	重複テキストのため省略
1771	1	Johnstone, George	Thoughts on our acquisitions in the East Indies . . .	mechanical arts, gathering, agriculture
1772	8	Mortimer, Thomas	The elements of commerce, politics and finances . . .	the Council of Commerce, opulence, the moderns, trade, mercantile affairs
1773	26	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society. 4 ed.	-
1774	1	Entick, John	The present state of the British Empire.	Society for the Encouragement of Arts, Manufactures and Commerce, improvement, Emulation
1774	8	Mortimer, Thomas	The elements of commerce, politics and finances . . .	重複テキストのため省略
1774	2	Savary des Brûlons, Jacques	The universal dictionary of trade and commerce . . .	BARBAR
1774	6	Savary des Brûlons, Jacques	The universal dictionary of trade and commerce . . .	MATHEMATICS, gaugers, accountants, PATENT, manufactures, promotion, trade, ROYAL SOCIETY OF LONDON, navigation, improvements
1775	1	Campbell, John	A political survey of Britain . . .	knowledge, practice, advantage
[1775]	1	Glover, Richard	The evidence delivered on the petition presented by the West-India planters and merchants . . .	commerce, fleets, armies, advantage
1775	1	Wimpey, Joseph	Rural improvements . . .	trade, husbandry, governments
1777	1	Price, Richard	Additional observations on the nature and value of civil liberty . . .	重複テキストのため省略
1777	1	Price, Richard	Additional observations on the nature and value of civil liberty . . .	重複テキストのため省略
1778	1	Price, Richard	Two tracts on civil liberty . . .	重複テキストのため省略
1780	7	Mortimer, Thomas	The elements of commerce, politics and finances . . .	重複テキストのため省略
1781	2	Ogilvie, William	An essay on the right of property in land . . .	progress, refinements, state
1782	22	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society. 5 ed.	-
1982	1	Weskett, John	Plan of the Chamber of Commerce . . .	prince of Wales, patronage, lustre, trade, navigation
1782	1	Macintosh, William	Travels in Europe, Asia, and Africa . . .	vulgar, plenty, accommodation, elegance
1782	2	Ogilvie, William	An essay on the right of property in land . . .	重複テキストのため省略
1792	14	Ferguson, Adam	Principles of moral and political science . . .	-
1793	27	Ferguson, Adam	An essay on the history of civil society. 6 ed.	-
1797	1	Brand, John	Considerations on the depression of the funds . . .	重複テキストのため省略
[1799?]	1	[Anno.]	Essay on political society.	prosperity, agricultural, dividing occupations

※ 網掛けは、ファーガソンの著作。

※ 重複テキストとは、初版と同じテキストを用いている後続の版、あるいは引用文を指す。

表3. フルテキスト・データベースでの検索結果(アート・商業的アート)

検索語	検索範囲	MoMW				ECCO			
		単数形	複数形	合計	合計の差分	単数形	複数形	合計	合計の差分
Art	1601-1650	706	218	924	-				
	1651-1700	1,747	804	2,551	x 2.8				
	1701-1750	3,754	2,077	5,831	x 2.3	47,813	27,474	75,287	-
	1751-1800	10,651	7,082	17,733	x 3.0	92,715	60,561	153,276	x 2.0
	1801-1850	17,594	12,264	29,858	x 1.7				
	1851-1900	4,014	2,079	6,093	x 0.2				
Commercial Art	1601-1650	0	0	0	-				
	1651-1700	0	0	0	-				
	1701-1750	0	1	1	-	0	3	3	-
	1751-1800	7	39	46	x 46.0	15	131	146	x 48.0
	1801-1850	4	7	11	x 0.2				
	1851-1900	1	0	1	x 0.1				

(点) (倍) (点) (倍)

※ 網掛けにした数値は、1601～1900年の最大値。

表4. ECCOの主題領域別検索結果(アート・商業的アート)

		歴史・地理	美術	社会科学	文学・言語	宗教・哲学	法	総記	医・科・技
Art(s)	1701-1750	7,248	1,704	11,516	20,317	24,843	2,618	1,803	5,238
	1751-1800	19,305	4,351	24,808	51,159	31,468	5,066	4,993	12,126
Commercial Art(s)	1701-1750	0	0	2	0	0	0	0	1
	1751-1800	68	1	45	15	6	0	5	6

※ 網掛けにした数値は、1701～1750年、1751～1800年の最大値。

画像 1. MoMW の基本検索画面



画像 2. MoMW の検索結果画面

画像 3. MoMW の本文検索結果画面

- ¹ Ferguson, Adam. *An Essay on the History of Civil Society*, ed. Duncan Forbes. Edinburgh University Press, 1966.
- ² Ferguson, Adam. *Of Natural Philosophy*. Edinburgh, c. 1760.
- ³ Ferguson, Adam. *Analysis of Pneumatics and Moral Philosophy: For the Use of Students in the College of Edinburgh*. Edinburgh, A. Kincaid & J. Bell, 1766.
- ⁴ Ferguson, Adam. *Institutes of Moral Philosophy: For the Use of Students in the College of Edinburgh*. Edinburgh, A. Kincaid & J. Bell, 1769; reprint, London, Routledge / Thoemmes Press, 1994.
- ⁵ Ferguson, Adam. *Principles of Moral and Political Science: Being Chiefly a Retrospect of Lectures Delivered in the College of Edinburgh*, 2 vols. Edinburgh, A. Strahan, T. Cadell and W. Creech, 1792; reprint, New York & London, Garland Publishing Inc., 1978.
- ⁶ 以下の研究は、私有財産・階級闘争・分業・発展段階論といった鍵概念をファーガソンのなかに見ている。Pascal, Roy. *Property and society: The Scottish Historical School of the eighteenth century*. *The Modern Quarterly*. 1938, vol. 1, no. 2, p. 173-174 (パスカル, ロイ. “財産と社会：十八世紀スコットランドの歴史学派”. 国富論下巻. スミス (水田洋訳). 河出書房新社, 1966, p. 430-431). Meek, Ronald L. “The Scottish contribution to Marxist sociology”. *Economics and Ideology and Other Essays: Studies in the Development of Economic Thought*. London, Chapman and Hall Ltd., 1967, p. 39, 48 (ミーク, R.L. (時永淑訳) *経済学とイデオロギー*. 法政大学出版局, 1969, p. 56-57, 70). Skinner, Andrew. *Economics and history: the Scottish Enlightenment*. *Scottish Journal of Political Economy*. 1965, vol. 12, issue 1, p. 9, 16-17. アンドルー・スキナーの論文は、私益の解放は富の蓄積だけでなく文学やアートの進歩にも適応されるというファーガソンの認識に言及しているが、アートについてこれ以上は論じていない (p. 16).
近年では、ヒルがファーガソンのコンフリクト概念を道徳的文脈においても読み込むなど、より広い解釈を提示している。Hill, Lisa. *Eighteenth-century anticipations of the sociology of conflict: the case of Adam Ferguson*. *Journal of the History of Ideas*. 2001, vol. 62, no. 2, p. 281-299.
- ⁷ ファーガソンの言説には、商業社会の積極的側面に触れたものと消極的側面に触れたものの両方が存在する。消極的言説を根拠にファーガソンを商業社会否定派と見なし、商業社会の先に必然的な腐敗を予見しているとする研究に以下がある。Pocock, J.G.A. *The Machiavellian Moment: Florentine Political Thought and the Atlantic Republican Tradition*. Princeton University Press, 1975, p. 499-501 (ポーコック, J・G・A (田中秀夫・奥田敬・森岡邦泰訳). *マキャヴェリアン・モーメント：フィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統*. 名古屋大学出版会, 2008, p. 433-434). Pocock, J.G.A. *Virtue, Commerce, and History: Essays on Political Thought and History, Chiefly in the Eighteenth Century*. Cambridge University Press, 1985, p. 130 (ポーコック, J・G・A (田中秀夫訳). *徳・商業・歴史*. みすず書房, 1993, p. 244. Pocock, J.G.A. *Barbarism and Religion*, vol. 2, *Narratives of Civil Government*. Cambridge University Press, 1999, p. 331. Hill, Lisa; McCarthy, Peter. *Hume, Smith and Ferguson: Friendship in Commercial Society*. *Critical Review of International Social and Political Philosophy*. 1999, vol. 2, issue 4, p. 44-45.
あるいは商業社会に対する積極的言説と消極的言説の両方を勘案したうえで商業社会擁護派と見なし、商業社会の先に発展と進歩を予見しているとする研究に以下がある。Geuna, Marco. “Republicanism and commercial society in the Scottish Enlightenment: The case of Adam Ferguson”. *Republicanism: A Shared European Heritage*, vol. 2, *The Values of Republicanism in Early Modern Europe*. Gelderen, Martin Van; Skinner, Quentin. Cambridge University Press, 2002, p. 184. Hill, Lisa. *The Passionate Society: The Social, Political and Moral Thought of Adam Ferguson*. Dordrecht, Springer, 2006, p. 195-196, 222. McDaniel, Iain. *Adam Ferguson in the Scottish Enlightenment: The Roman Past and Europe’s Future*. Harvard

- University Press, 2013, p. 93-118. なお、ヒルとマクダニエルとも「商業的アート」という言葉を商業と同義に用いている。
- ⁸ 天羽康夫. ファーガスンとスコットランド啓蒙. 勁草書房, 1993.
- ⁹ 天羽康夫. ファーガスンとスコットランド啓蒙. p. 203-204.
- ¹⁰ Berry, Christopher J. “‘But art itself is natural to man’: Ferguson and the principle of simultaneity”. Adam Ferguson: Philosophy, Politics and Society. Heath, Eugene; Merolle, Vinzenzo. London, Peckering & Chatto, 2009, p. 143-153.
- ¹¹ Berry. “Art itself is natural to man”. p. 146.
- ¹² Berry. “Art itself is natural to man”. p. 152.
- ¹³ Ferguson. Natural Philosophy. p. 2-3.
- ¹⁴ Ferguson. Natural Philosophy. p. 2
- ¹⁵ Ferguson. Analysis. p. 3-4.
- ¹⁶ Ferguson. Institutes. p. 2-3.
- ¹⁷ Ferguson. Institutes. p. 1.
- ¹⁸ Ferguson, Adam. Institutes of Moral Philosophy, third edition enlarged. Edinburgh, Printed for John Bell & William Creech. Sold in London by T. Cadell and G. Robinson. 1785, p. 3.
- ¹⁹ Ferguson. Civil Society. p. 6.
- ²⁰ 「ネイチャー」と「ナチュラル」の修辭的用法については、彼独自の自然状態論で最も効果的である。「自然状態 the state of nature はどこにあるのかと問われたなら、それはここにあると答えよう。私たちがブリテン島・喜望峰・マゼラン海峡のどこにいても、答えは変わらない。活動的な存在が自身の能力を使い周囲の対象に働きかけ続けているあいだ、その環境はすべて等しく自然 natural である。」(Ferguson. Civil Society. p. 8.) ここで自然状態とは社会契約以前の人間の初期状態であるという前提が壊され、自然状態とはすなわち自然な状態と書き換えられている。
- ²¹ Ferguson. Principles, vol. 1. p. 200.
- ²² 第3部「政策とアートの記述について」第7節「アートの記述について」。
- ²³ Ferguson. Civil Society. p. 6.
- ²⁴ Ferguson. Civil Society. p. 171.
- ²⁵ Ferguson. Civil Society. p. 167-168.
- ²⁶ Ferguson. Civil Society. p. 59.
- ²⁷ Ferguson. Civil Society. p. 95.
- ²⁸ Ferguson. Civil Society. p. 232.
- ²⁹ 「ニューマティクス」第1部「人間本性について」第1章「人類の記述」。
- ³⁰ Ferguson. Analysis. p. 11.
- ³¹ 「道徳哲学」第2部「外的条件と行為に関連する道徳法則について」第2章「政治学について」第1節「パブリック・エコノミーについて」。
- ³² Ferguson. Analysis. p. 47.
- ³³ 第7部「政治学について」第2章「パブリック・エコノミーについて」。
- ³⁴ Ferguson. Institute. 3rd ed. p. 2-3.
- ³⁵ Ferguson. Civil Society. p. 230.
- ³⁶ Ferguson. Civil Society. p. 231.
- ³⁷ Ferguson. Civil Society. p. 261.
- ³⁸ 第1部「人間の自然史」第1章「人類の記述」第9節「アートと商業」。
- ³⁹ 初版では欠落しているのだが、これは何らかのミスであると推測される。続く文章で、安全・生存・便宜・装飾のために用いるアートが順に説明され、第2版(1773)、第3版(1785)、新版(1800)の「アートと商業」第1文には、この4つが並列されている。
- ⁴⁰ Ferguson. Institutes. p. 26.
- ⁴¹ Ferguson. Principles, vol. 1. p. 242.
- ⁴² Berry. “Art itself is natural to man”. p. 146.
- ⁴³ Ferguson. Principles, vol. 1. p. 245.

- ⁴⁴ Ferguson. *Institutes*. p. 32.
- ⁴⁵ Ferguson. *Institutes*. p. 31. *Civil Society*. p. 180.
- ⁴⁶ Ferguson. *Institutes*. p. 32.
- ⁴⁷ Ferguson, *Principles*, vol. 1, p. 256
- ⁴⁸ 『史論』では、商業の意味で商業的アートという語が用いられている例もある。商業的アートは生活に要するモノの獲得に関するため、商業を「商業的アートの一部」、「狭義の商業的アート」として捉えることも可能なためである。ファーガソンの用語法は必ずしも厳密ではないが、商業と商業的アートには定義上区別のある点が重要である。
- ⁴⁹ 附属図書館はその後2014年3月に、共同購入契約価格にてECCOを購入した
- ⁵⁰ Postlethwayt, Malachy. *Britain's Commercial Interest Explained and Improved; in a Series of Dissertations on Several Important Branches of Her Trade and Police: Containing a Candid Enquiry into the Secret Causes of the Present Misfortunes of the Nation. With Proposals for Their Remedy. Also the Great Advantages, which would Accrue to This Kingdom from an Union with Ireland*. London, Printed for D. Browne, without Temple-Bar; A. Millar, in the Strand; J. Whiston and B. White, and W. Sandby, in Fleet-street, 1757, vol. 1, 2 の二重収録を修正した。第1巻について、ゴールドスミス文庫版 (Reel 695) は総頁が575頁、クレス文庫版 (Reel 704) は574頁となっている。前者では190～191頁が2枚あり、後者では標題紙の直後に白紙が1頁あるために生じたずれで、本文は同じであった。第2巻について、ゴールドスミス版 (Reel 695) は総頁が563頁、クレス文庫版 (Reel 704) は566頁となっている。前者は目次の順序が誤って製本されており、後者は標題紙の直後に白紙が1頁、192～193頁が2枚あるという違いはあるが、本文は同じであった。
- ⁵¹ Postlethwayt. *Britain's Commercial Interest*, vol. 1. p. 190.
- ⁵² Mortimer, Thomas. *The Elements of Commerce, Politics and Finances, in Three Treatises on Those Important Subjects, Designed as a Supplement to the Education of British Youth, after They Quit the Public Universities or Private Academies*. London, Printed for the Author, 1772, p. 15.
- ⁵³ Harte, Walter. *Essays on Husbandry: Essay I. a general introduction, shewing that agriculture is the basis and support of all flourishing communities : the antient and present state of that useful art: agriculture, manufactures, trade and commerce justly harmonized: of the right cultivation of our colonies, together with the defects, omissions, and possible improvements in English husbandry: Essay II. an account of some experiments tending to improve the culture of Lucerne by transplantation: being the first experiments of the kind hitherto made and published in England, from whence it appears that Lucerne is an article of great importance in English husbandry*. London, Printed for W. Frederick in Barth, 1764.
- ⁵⁴ MoMW I と MoMW II は別に販売されているが、双方を購入すると統合したひとつのデータベースとして利用することができる。
- ⁵⁵ デジタル化されたテキストすべてに検索がかかるので、題名や脚注も含む。
- ⁵⁶ 単数形と複数形を分けて調べたが、資料点数はその合計である。
- ⁵⁷ 単数形と複数形を分けて調べたが、資料点数はその合計である。
- ⁵⁸ 古川安. *科学の社会史：ルネサンスから20世紀まで*. 南窓社, 1989, 127-144頁.
- ⁵⁹ 国立大学図書館協会学術情報流通改革検討特別委員会 “電子ジャーナル・コンソーシアム活動報告書 (平成21-22年度)” には、「STM (科学・技術・医学) 分野においては、学術雑誌が研究活動にとって不可欠な情報資源となっているが、一方、人文・社会科学分野では、研究活動の性質上、なにより、文書、報告書、図書といった原資料そのものが重要な役割を果たしている。これらの原資料はこれまで冊子もしくはマイクロ化されたものが利用されてきたが、電子化の進展に伴い、近年、オンラインで利用可能なコレクションが増加し、それらの利用に対する要求が高まっている。」と記述がある。国立大学図書館協会学術情報流通改革検討特別委員会 “電子ジャーナル・コンソーシアム活動報告書 (平成21-22年度) 平成23年3月”. p. 7, (オンライン),

-
- http://www.janul.jp/j/projects/ej/katsudo_report4.pdf, (参照 2013-11-22).
- ⁶⁰ 2011年4月1日、JANUL コンソーシアムと PULC は、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) として統合された。
- ⁶¹ 電子ジャーナルバックファイルでは、Oxford University Press: Archive Collection (1996-2003) と Kluwer Online (1997-2005) でナショナル・サイトライセンスが実現されている。
- ⁶² JUSTICE. “JUSTICE リーフレット日本語版 (2012年1月)”. (online), http://www.nii.ac.jp/content/justice/documents/JUSTICE_leaflet_J_201201.pdf, (参照 2013-11-22).
- ⁶³ Die Deutsche Forschungsgemeinschaft. “Nationallizenzen”. (online), <http://www.nationallizenzen.de/angebote>, (参照 2013-12-03).

【論文】

アダム・ファーガソンの商業的アート概念：The Making of the Modern World を用いて

福田名津子（一橋大学附属図書館研究開発室）

要旨

アダム・ファーガスン（1723-1816）によると、商業的アートは生活に要するモノの獲得に関わる。「商業的アート」と「商業」を同義としない用法が当時一般的であったかどうか、The Making of the Modern World (MoMW) というフルテキスト・データベースを用いて調べた結果、彼の独自性が確認された。The Eighteenth Century Collections Online (ECCO) というフルテキスト・データベースではより多くの用法が発見された。

キーワード

アダム・ファーガスン、商業、商業的アート、Making of the Modern World、Eighteenth Century Collections Online、ECCO

[Article]

Adam Ferguson's Concept of the Commercial Arts: based on Research using The Making of the Modern World

Fukuda, Natsuko.

Research Development Office, Hitotsubashi University Library

Abstract

For Adam Ferguson (1723-1816), the “commercial arts” were concerned with the acquisition of necessities. This usage was found to be unusual by an examination of the full text database “The Making of the Modern World” (MoMW). Another database, “Eighteenth Century Collections Online” (ECCO), showed many more results.

Keywords

Adam Ferguson, Commerce, Commercial Arts, Making of the Modern World, Eighteenth Century Collections Online, ECCO